

赤こんりポート

馬場利男リポーター

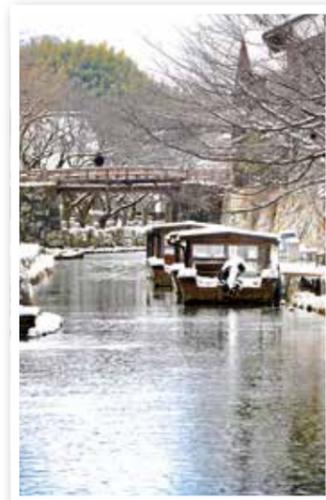


子どもたちが消火器放水と餅つき体験

1月18日、子どもたちを対象とした初期消火訓練が行われ、約70人が参加しました。最初に、近江八幡市消防団馬淵分団長から、ホースやノズル、吸管などの説明があり、子どもたちはポンプ車に乗ったり団員からノズルの持ち方を教わったりしました。その後、火災に見立てた「まと」に向かったの放水訓練を行いました。「まと」が早く倒れる子どももいれば、近くまで行かないと倒れない子どもたちもいましたが、「まと」が倒れるとみんなほっとしていました。訓練後、日赤奉仕団馬淵分団の協力で餅つきが行われ、子どもたちは周りからの「頑張れ」の声を受けながら、順番に餅をつきました。子どもたちは、「餅つきはしんどかったけど楽しかった」と話していました。

赤こんりポート

東知樹リポーター



雪舞う八幡堀

雪が降った2月8日、八幡堀は一面の雪景色に包まれていました。春になると水郷巡りで使われる屋形船も雪を被り、寒さとともに冬の季節を実感することができました。途中、太陽が顔を出した時には雪に光がキラキラと

反射してとても明るく、雪が降っていた時との雰囲気ギャップに心を動かされました。また、観光客の人たちも雪で映える八幡堀を楽しみながら、雪の景色とともに歴史ある建物の姿を写真に収めていました。雪が降る今の季節でしか味わえないこの景色、皆さんも一度目に収めてみてはいかがでしょうか。



赤こんりポート

山田恵美リポーター



みんなでつくろう！市民広場ワークショップ

新たな市民広場の活用方法を考える「みんなでつくろう！市民広場ワークショップ」が1月25日に開催され、市内4校の中高生が参加しました。第1回の今回は、「広場での過ごし方、やりたいこと」をグループごとにふせんを用いながら話し合い、参加者は「勉強できる場所」「学生主体の観光ガイド」など中高生ならではの目線で、意見やアイデアを出し合いました。第2回ワークショップでは、広場の使い方や活動内容をイメージし、主な機能のレイアウトを考え、第3回では広場の利用を促進するために必要な取り組みを考えるなど、さらに深掘りしていきます。市民広場が、誰もが集い交流できる、そんなやさしい「みんなの居場所」になればと期待しています。

赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



映画を通じて生まれるインクルーシブ社会

市内在住の野澤正太さんは、普段は行政書士として障がい福祉事業の開設や運営サポートを行う傍ら、株式会社弁天プロとして、映画の制作にも携わっています。障がいのある人や発達に特性のある人など、マイノリティーと呼ばれるような人も多数出演。映画制作を通じて「小さなインクルーシブ社会」ができるそうです。野澤さんは「撮影中に演者全員がそれぞれの状況を理解して受け入れ、とても優しい空気が生まれる。普段の社会でもこの空気が当たり前になれば」と教えてくれました。

1月30日、2月2日



▲ YouTube で公開中

「観音正寺の人魚伝説」がアニメになって登場！

観音正寺に伝わる人魚伝説をモデルに、(一社)日本昔ばなし協会が短編アニメーションを制作し、市役所で試写会が行われました。これは、海と深く関わりを持つ日本の子どもたちに「海とのつながり」と「地域の誇り」を伝え語り継ぐことを目的に、「海ノ民話のまちプロジェクト」が実施している活動で、県内では4番目に制作されたものです。2月2日は、市内小学生親子を対象とした試写会とフィールドワークが行われ、子どもたちはアニメや西の湖クイズ、和船からの自然の眺めを楽しんでいました。

ヴォーリズ来日120周年記念事業「バンザイなこっちゃん！」

2月2日



キリスト教の伝道、教育、建築、医療などの分野で市内外を問わず活躍した、本市の名誉市民である「ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（日本名：一柳米来留）」が明治38年に来日して、今年で120年になりました。

今年は大阪で万博、滋賀で国スポ・障スポが開催されるなど、国内外から注目を集める大きなイベントがあります。これらを機会に新たな視点や発想を取り入れ、ヴォーリズの魅力を再確認・再発見しようと、「バンザイなこっちゃん！」協議会が発足されました。今後、さまざまな記念事業が実施される予定です。

講演会は続きます！ぜひご参加ください♪

4月26日(土) 乙女建築なヴォーリズさん
5月31日(土) 世界の中心でヴォーリズサミット
7月19日(土) ヴォーリズさんのびっくりポン！
9月20日(土) ヴォーリズさん、満喜子さんをドラマに！
12月7日(日) 愛と平和に満ちた共に生きる社会をめざして
※詳しくは右上の二次元コードからご確認ください。



基調講演「いま、なぜヴォーリズさんの？」

記念事業の第1回目は、神戸女学院大学名誉教授の内田樹さんを講師に招き、基調講演が行われました。県立男女共同参画センターで行われたこの講演は、県内外からあわせて500人以上が参加。講演では内田さん自身の体験をもとに、「教育施設」としての設計思想を述べ、「ヴォーリズ建築は、『声』と『好奇心』を大切に設計であり、学び舎が人を作ると感じました」と話していました。講演会の後半には、元関西学院院長の田淵結さんなどを交え、トークセッションも行われました。